

岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第4回農林高校部会（会議録概要）

- 1 開催日時 令和3年1月22日（金）午後14時00分～15時54分
- 2 場 所 木島平村役場2階 第1・2会議室
- 3 出席者
部会長 木島平村長 日 碁 正博
副部会長 栄村長 宮川幹雄
木島平村教育長 小林 弘
栄村教育長 石澤 清人
下高井農林高校同窓会長 村松 剛志
中野・下高井中学校長会 木島平中学校長 伊賀 雅志
下高井農林高校PTA会長 上埜 暁子
信州いいやま観光局常務 石田 一彦
飯水岳北建設労働組合長 真篠 剛
北信州森林組合利用事業室長 滝沢 良一
木島平村農業関係者 小池 雅章
特別養護老人ホーム里山の家木島平施設長 大日向 久美
栄村森林組合職員 上野 由希菜
木島平村農業振興公社事務局長 小林 正俊
オブザーバー 下高井農林高等学校長 久根 敏
オブザーバー 長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室
主任指導主事 上原 一善
事務局 木島平村教育委員会子育て支援課長 島崎かおり
木島平村教育委員会子育て支援係長 武田 幸一
飯山市教育委員会教育部子ども育成課子ども育成課長 岩崎 敏

4 開 会

5 あいさつ（部会長、部副会長）

日碁部会長

はい、皆さんこんにちは。今年初めてという事でちょっと時期が遅くなりましたが、明けておめでとうございます。まだ、新型コロナウイルスの感染の拡大も続いている中であ

ります、それぞれ皆さん方には、感染防止対策を取りながらそれぞれの職務にあたっていただいていうふうに思います。この魅力づくり研究協議会につきましても、令和2年度についての取りまとめの時期になって参りました。県に要望する事項、それからまた周辺自治体、それから周辺の地域の皆さんで協力して下高井農林高校の魅力を高めるという取り組みを進める、その中身を改めて皆さん方にご確認いただきたいと思います。これらの事業を進めていく上で、やはり皆さん方の協力なくしては前に進まない事ばかりであります。周辺自治体もですけど、一つの市村としてもしっかりとそれを推進していきたいと思いますが、皆さん方にもそれぞれご協力、ご支援いただきますようお願い申し上げたいと思います。そしてまた活発なご意見をいただきながら実質的に本当に、本当の意味で下高井農林高校の魅力が高まっていく、そんな取り組みを進める事ができるようにお願いいたしまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

宮川副部長

明けましておめでとうございます。新年になってウイルスが、おとなしくなったわけでもないで、なかなか穏やかな気持ちになる事はできませんけれども、コロナウイルスの拡大や自然災害がこう毎年多発する大変な事態にある今こそ、この地域を守っていく、守っていただくだけでなくこの地域を発展させていく、そのためには農林高校の存在は極めて大きいと昨年から重ねてきた会議の中でそのことを改めて実感をしているところでございます。今、日基会長が申し上げましたけれども、私共にできる事は、農林高校がこの地域のために絶対必要な存在として更にアピールをしていく事、それから農林高校の更なる魅力づくりへの道筋をしっかりとつける事、そういう事だと思います。本校の持つ役割の重要性を多くの皆さんからご理解をいただく事ができますように一生懸命これから皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

6 議事・会議事項

日基部会長

それでは私の方で進行させていただきます。最初に、前回第3回の部会において具体的に出された意見、提案等について、そしてまた下高井農林高校の取り組みの方向について事務局から確認の意味で説明をいたしますのでよろしくお願いいたします。

事務局

それでは、資料3をお願いいたします。A3版の縦長のカラー刷りの資料になります。これまで農林高校部会で出された意見や提案をもとに、今後どんな支援ができるか具体的な取り組みについて、前回の部会で部会員の皆様からご意見等いただきました。青色の矢印の部分が前回ご意見をいただいたものという事でまとめてございます。ご覧いただき、ご確認

いただきたいと思います。以上です。

日基部会長

中身についてはそれぞれ細かい説明はないということですが、ご確認いただいて皆さんのほうで質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

木島平村農業関係者 小池さん

いいですか。農林高校の校長先生にお伺いしたいのですけれども、インスタグラムって今は農林高校の方でやっていますけど、発信というのは生徒自身か、それとも先生ですか。

下高井農林高等学校 久根校長

職員の方でやっています。

木島平村農業関係者 小池さん

見ていてちょっと思ったのが、頻繁な更新というよりもまとめてどんと何日分も一気に更新するので、なんかちょっとリアルタイムでなかったり、何日も前のやつが本当に5つも6つもまとめて下高井農林でズラズラッと並んでくるので、そういうよりは、やっぱりある程度その日とか、1日2日の間にその都度その都度、更新できる方が見ている方も、農林高校ばかりズラズラッと一気に出てくるんですよ。フォローしているんですが、そうするとやっぱりちょっと見ている方もどこまであるのかなっていうふうになったりして見るのも疲れるというか、ずっと農林高校のがいくつも続いているのが出てくるので、なるべくその日にあった事はその日のうちに、ちょっと大変な部分はあるのかもしれないですけど、その方がいいのかなと個人的に思いました。

日基部会長

参考にしてください。

下高井農林高等学校 久根校長

ありがとうございます。貴重なご意見だと思います。こちらの方でも手が少ない中でやっております。ただ、見る側が一気にきてしまっって、ちょっとウンザリというのも多分お感じになっていると思いますので、発信の仕方についてはまた検討させて頂ければと思います。

日基部会長

他に。

信州いいやま観光局 石田常務

資料の中の2の令和3年度以降の取り組みという事なのですが、私共の方ではデュアルシステム実施体制の構築というふうに名前を入れていただいているのですが、デュアルシステム実施体制構築というのは、どちら側からアプローチをかけて学校、それからまた我々がどういうふうにスキル作りをしていくのか、というふうについてお考えがありましたらご返答いただけたらと思います。

日基部会長

じゃあ先生の方から。

下高井農林高等学校 久根校長

はい、デュアルシステムの話ですけれども、これについては基本的には学校主導でやっていかなければいけないというところだと思います。その時に、地域の方に受け入れ先としてどうゆう所がいいのかということを実際にご支援いただきながら進めていく事になります。そういったところでコーディネートしていただくところも含めて、学校の方に何らかの形で重点をおいていかないと、なかなかこれ進んでいかないかなと思いますので、体制としてはそういう形でいきたいと思っております。どのような方がいいのかということも含めてご意見をちょうだいしながら、学校の方でも検討はしていく訳ですけれども体制づくりについては、実際には令和4年の入学生が3年生になったときには、もうそれは始動できるようにその体制を作っていくという事は考えております。

信州いいやま観光局 石田常務

メニューづくりは学校が行うという事ですかね。受け入れ先は我々にはなっていますが。

下高井農林高校 久根校長

ただその時に、どういう受け入れ先がいいのかというのは、なかなか職員も変わっていく中で受け入れていただける方を紹介していただくようなところも含めて、一緒に話し合っていていただく方に地域の方に入っていていただいて、お願いをしていくというような事を考えています。

日基部会長

今日は、委員さん含めてうちの方ではこうゆう形で受けていますよ、というものを提案していただいて、逆に今度高校生の方からはこういう事をやってみたいとか自分の将来とか進路を考えてどういう事を体験してみたいということ要望もあると思うので、そうした中で高校の方で発信をしてもらって繋いでいくといった形を作っていきたいという事でお願ひしたいと思います。他に。

先程も申し上げたとおり、またこの後、皆様方の方にどういう形で、どういうものを受け

入れできるのか、それぞれその内容についてそれぞれまたお考えをお聞かせいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。他に何かありましたら。よろしいですか、また会議の途中でもありましたらご意見お願いいたします。

それでは続いて、令和2年度の岳北地域における魅力ある高校教育に向けて要望、要請書についてという事で事務局から説明をいたします。

事務局

お願いします。別冊になりますが、5枚ほど綴じてあるものであります。令和2年度岳北地域における魅力ある高校教育に向けて要望、要請書とありますが、こちらは案という事でお願いいたします。これまで当協議会の飯山高校部会、農林高校部会で検討してきたものをこの2月に県教委の方へ要望、要請書を提出していく訳でありますけれども、農林高校部会の要望、要請事項について事務局案という事でご協議いただければと思います。1ページ開いていただきまして、初めにとありますがこれまでの経過が載せてございます。2の農林高校部会の要望、要請事項についてであります。（1）の要望事項ですが、令和2年1月14日「岳北地域の高校の将来像を考える協議会」から提出しました岳北地域における高校教育の在り方についての意見、提案書の中で学びの在り方に関して、「環境整備に関して」については地域の中学生の期待に応えられるように早急に取り組むこと。2、生徒にとって魅力的な学習環境を提供するためにも、実習棟の屋根の修理や塗装など校舎の外観を整備に向けて、より整備を進めていく事。3、生徒が経営感覚をもって活動できるためにも販売実習売上金の生徒への還元金の見直しを行う事。4、魅力的な専門教育、キャリア教育を充実していくためにもドローンや施設栽培環境制御システム、AIを活用した農業機械など先進的機材の導入に財政的な支援を行う事。

（2）の要請事項であります。中山間地存立校の基準の見直しについて。在籍生徒数が120人以下の状態もしくは在籍生徒数が160人以下かつ卒業生の半数以上が当該高校に入学している中学生がいない状態が2年連続した場合には再編対象としてとあるが、この160人の根拠の物議を示していただきたいというものでございます。以上です。

日基部会長

はい、まだ色々あるというふうには思いますが、とりあえず2年度分としてはこういった形で取りまとめをしていければと思っております。またご意見いただきたいというふうに思いますが。④番の表現ですが、農業機械の先進的機材の導入に財政的な支援じゃなくて、財政的な措置を行うという事です。県の方で整備をしてもらうということなので、財政的な措置を行ってほしいと。それから国の方にも、義務教育については1学級35人というクラスの定員の見直しをするという事なので、そうすると160人の根拠というのがどういうものなのか、40人から35人になった場合、人数が減るという事もあるのかどうか、高校は別だというふうになるのかどうか、その辺の考え方も県教委としてどういうふうに捉

えているのか教えていただきたいとそういう意見です。それから、また高校の方で要望している環境整備については、地域としての高校の施設そのものがしっかりしていないと高校の魅力も高まってこないという事の高校の要望であります。それはやはり地域の要望でもあるという事でぜひ要望事項として上げていきたいという事であります。その他皆様の方で何か、こういう事はどうかという事や中身についてご意見ありましたらお願いいたします。

いいやま観光振興局 石田常務

それぞれ要望事項、要請事項ただ今拝見をさせていただきました。この案はこの案でよろしいかとは思のですが、従来、会長もおっしゃっている下高井農林高校の存続という部分のメッセージについては、この中ではメッセージ性、あるいは要望事項、要請事項はなかなか伝わってこないと思うのですが、基本今回の目的と言いますか開催趣旨については下高井農林高校の存続ということを主題として、テーマとして皆さんお集まりだというふうに承知しております。その中で魅力ある学校づくり、高校教育づくりの中で屋根の修理や塗装は大事ですと。それは当然の事なのですが、この中からそういった本来の本会の趣旨としてのメッセージはどこかで出さなくてもいいのかなというふうには要望事項の中からちょっと感じ取れるのですがその辺はいかがですか。

日基部会長

その点については、昨年１月に「岳北地域の高校の将来像を考える協議会」の意見、提案書の中で下高井農林高校の存続を図ることと。ただ、こういった条件で示しているとおり、その条件を下回った場合には廃校ではなくて地域キャンパスと。ただこの地域とすれば、地域キャンパスでなくあくまでも今の形の下高井農林高校の存続を目指す。そのためにいかに魅力ある学校にしていくか、それについて地域も一緒になって取り組んでいきますよという事であり、最初にあげてある意見、要望、提案書の中に下高井農林高校の存続という事を掲げていますので、その前提でこの要望事項をあげていると。大前提があつて、その次に年度ごとにいろいろな要望事項をあげていくというふうに捉えていますので、そんな事でよろしいですか。

いいやま観光振興局 石田常務

はい。

日基部会長

他に。どこの部分でもいいのでご意見をいただきたいというふうに思いますが、とりあえず進めさせていただいて、令和３年度に向けての具体的な取り組みについて事務局の説明をお願いします。

事務局

次第をめぐっていただいた次のページに資料4 ございます。第4回岳北地域高校の魅力作り研究協議会農林高校部会という事です。大きく2つに分けてオレンジのマーカーの部分であります、1. 令和3年度に向けて 2. 農林高校の教育課程による教育活動の2つに分けてございます。

まず1であります、黄色のマーカーの部分で要請地域の財政支援に関わる事業という事です。今まで皆様からご意見いただく中でまとめさせていただきましたものが、5点ほどございます。1として、農林高校の魅力化と地域との交流調整という事でコーディネーターの配置。2. 冬季におけるスクールバスの運行について通学の補助など。3. 県教委主催の海外での学びの推進事業に参加費の補助。4. ドローンを使った資格取得支援事業、コーチ謝金及び機材の購入。5. 冬季の除雪車体験、人件費補助など、となっております。なお財政支援については、4市村の担当者会などで研究や調整が必要になってくるというものでございます。

2の自治体の独自の支援事業であります、現在も飯山市、また木島平村でも高校生の活動について支援を行っている事業があります。3のチャレンジ事業であります、事務局の1つの案ですが、岳北地域高校の魅力づくりに向けて現状や事業の説明、将来像などをPRする中で賛同を得てクラウドファンディングといった手法も考えられるのではないかと思います。1つの事例でありますけれども、北海道の夕張高校では、存続させるために地域活性化対策に対して資金を募ったところ目標額に対して、目標額を上回る資金が寄せられたという事例がございましたので参考にあげさせていただきました。2の農林高校の教育課程による教育活動であります。こちらについては、現在学校の方で教育方針としてやっていたいものであるものでございまして、今後も支援を継続していくというものとなっております。裏ページまで続いておりますがよろしく申し上げます。以上です。

日基部会長

交流事業の方は。

事務局

交流事業につきましては、今農林高校さんの方でやっている活動がございします。地域と連携してやっている部分もあるのですが、学校でやっている事に対して見守っていったり支援をしていくという内容になっております。それから3の農林高校のソバの商品化についてですけれども、こちらも記載のとおりであります、ある程度生徒にも負担を掛け過ぎずにソバの圃場の管理などコーディネーターの配置により、そういった事もできないかというものでございます、以上です。

日基部会長

皆さんにお願いする部分と、それからまた高校の、下高井農林高校の方で進めていくものがありますので先生の方で説明をお願いいたします。

下高井農林高等学校 久根校長

2のところからですかね、キャリア教育については今現在やっているものはあります。特にデュアルはこれからやっていくと先ほど申し上げましたけれども、これについては進めていく予定で考えております。継続部分として2、3についてはもう既に授業の中である程度始めて職員の方は始めておりますので、今後農業の方も林業の方にもこういった部分は取り組んでいくという事で職員体制としては考えております。そこに対してのまた外部講師等のお話であったり、ドローンそのものについては県の方へもまた要望等も出していかないといけないかなというところでもあります。スマート農林業に係ってくる話だと思います。交流につきまして、特に1についてはもう今現在の部分とこれを発展させる地域資源の有効活用。それから地域の活性化の部分ですね、馬曲温泉との活性化プロジェクトについては下の学年の方で継続して引き継いでいくような形の体制になっております。2の大学との連携のところにつきましては、これは前の会議の時にも少し話をしましたけれども、学校の授業の方針、授業のカリキュラムとうまくマッチングできたところであれば、その大学の先生方や学生さんとの連携という事もできるのだと思いますが、連携ありきという事であると非常に厳しいのかなというところもあります。これについては、職員の方でも今、研究をしているところですが、課題研究のテーマによっては上部の機関とのお力を借りたりするようなどころも当然出てくるかなというふうに思います。農林高校のソバの商品化という事で、実際にブランドという資料がありますが商品化という事で今ちょうど取り組んでおりますが、これをブランドとして立ち上げていくというところを学校として前面に打ち出すという事ではなくて、生徒のやはり課題研究の一環のところ、それから今後については部活動ですね、どちらかというとな農業クラブの活動の一環としてこれは進めていくという事で考えております。生徒の当然希望、要望があればそのようなクラブ活動が続いていくのかなと思いますが、いかんせん生徒の力の部分もありますので、常にそれが継続していくという事は、生徒の努力と職員の方の指導次第という部分もあるわけです。当然そのところは地域の方のお力を今現在お借りしたり、財政的にも支援していただいておりますのでそういったところで今後もできる事をやっていきたいというふうに思っております。

日基部会長

ありがとうございました。若干、補足させていただきますと、いずれにしても下高井農林校とそしてまた自治体そして地域そしてまた中学校と、下高井農林高校とその周辺の皆さんとを結びつけるというそれぞれの活動をしっかりと結び付けていく人が必要と、コーデ

イナーターと出ましたが、これについては村の方で予算化をしてその人材を配置していきたいというふうに考えています。先程あったデュアルシステムの関係であったり、それからまたソバとか、それからまた交流活動についてやはり高校だけではなかなかできない部分があると、それらについてはその関係する外部と間に入って調整をする、場合によれば支援をするそういう環境を作っていきたいというふうに考えています。今日は、高校の魅力アップづくりを支援してくれる議員の皆さんもいらっしゃいます。そちらの方の予算の検討もまた是非一緒に考えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。今日はオブザーバーで議員の皆さんいらっしゃいますので、必要な財政的な措置についてもぜひ応援していただければというふうに思います。ここに掲げたものについては、今すぐできるものと、なかなかすぐできないものといういろいろあると思います。それからまた、いろいろ計画したのだけれど、なかなか難しいところがあるかも知れませんが、先程あげた計画の中で新たに計画していく、新規に増えるものもあるだろうというふうに思います。皆さんの方でこういう事がやりたいとか、それからちょっと難しいんじゃないかとかそんなようなご意見ありましたら、皆さんの方から意見を伺いたいと思います。逆にこういう形で受け入れとか、参加をしていきたいという事がありましたらぜひ、この場に出していただければと思います。宮川村長、何かありませんか。

宮川副部長

昨日、実は栄村の農業委員さんとの懇談会というのをちょっと1時間半ばかり、懇談会というか農業委員会のあと農業委員の皆さんといろいろお話をさせていただきました。その中で農業委員会、農業委員さんの使命、役割とかあるのですが、やはり今一番なのはやはりこの地域を守っていく、後継者を何とか育てていく、見つけていくこれが一番大事な役割として農業委員会の皆さんにぜひ頑張ってくださいというような。いろいろな話の中でやはり農業高校として農家、農業だけでなく下高井農林という学校の存在が今のいろいろな事が起こっている中で、これから絶対必要になってくるのだろう、という事の意識というのもしっかり農林の皆さんに期待するところがどんどん大きくなっているのではないかなという事を、皆さんの話の中で感じている訳でございます。やはり、この重要性とか必要性というかこの地域を何とかこれから先に繋げていくといった事の為にもぜひ、このいろいろな今の交流事業、それからソバの商品化とかあるのですが手立てを皆さんと本当にいろいろと考えていかないとならないとそういった訳であります。要は農業委員会そういった皆さん方もやはりかなりこういった事について一緒に考えていってもらえればありがたいというお話をさせていただきました、以上です。

日基副部長

他に皆様の方で。今、農林高校の生徒さんの方でも去年、提案があった中にSDGSというか再生可能エネルギーとかそれから地球温暖化対策とかそれらに興味関心がある、そう

いう取り組みをしたいという事がありましたので、それに関わるものについてはまた村としても取り組んでいきたいと考えています。それについてはまた高校の方で、いろいろ検討していただいて自治体とか地域が支援できるものがあればまたこの中に取り込んでいきたいなと思っております。

産業界で伊東さんどうですか。ご意見とか要望とかありましたらお願いいたします。

飯山商工会議所 伊東会頭

農林高校へ自分が夢を持ってくる子供達とそうでない子供達の中で、我々が真剣に与えようとしても実際に真剣に取り組んでくれているのかどうか、その辺も含めて基礎的な事からしっかり踏まえていかないと子供達に伝わらないのかなと思います。我々のエゴと希望だけの中で、こういった会議を持っても乖離した何かが出てくるのではと思います。できれば、高校生達とのちょっと座談会的に話し合いといった場を持てれば、高校生が今どんなことを思っているのか、どんな将来像を描いているのか、そんなこともわかるのかなと思います。実際に子ども達は、我々が思っているような事を考えてくれているのか。そういう将来的なことを考えている子どもは少ないのではないかと、そんなところからしっかり我々、取り巻きの人間が学ぶ必要があるのかなと思うようになってきていますので、ぜひ話せる機会があればいいと思います。

日基部会長

確かにそういう面もあるというふうにも思いますが、やはり下高井農林高校の卒業生の皆さんは結構地元への定着率が高い、それもやはり地元の産業へ貢献しているという事なので、こういう面で見てもあれもこれもいろいろと取り組んでいる訳ですね。高校生がどこに興味関心を持って、これを自分の将来にどういう形で役立つかという期待というのは、どこにあるかわからない。そういう面ではいろいろな体験をしたり、いろいろな経験をする事によって、これは自分の将来の何か結びつくのかなと、そういうようなきっかけになってもらえばと思う訳ですがその辺、校長先生どうですかね生徒の受け取り方というのは。

下高井農林高等学校 久根校長

貴重なご意見ありがとうございます。正直なところそのとおりです、3年生がこれで自宅研修に入る訳ですけれども、課題研究発表も「なちゅら」で明日やる予定になっておりましたが、この様な状況になってしまいましたので、つい先週、校内の課題研究発表があり、それで在校生についてはリモートで教室にいるような形でやらせていただきました。中学生の申込みもあったり地域の方、保護者に来ていただくような形では考えていたのですが、それすらできなくなったという事で、当初の予定でもあったのですがケーブルテレビさん、ふう太ネットさんに取材に来ていただきました。ふう太ネットさんについては2月9日、11、13の3日間ですかねそれぞれの時間帯になります。それから、iネットさ

んや長野テレビさんについても放送はされるという事で、栄村については中学生の方に来たいという生徒さんがいましたので、中学校にDVDをお貸しするような形で対応しようと思っています。そんな事で、課題研究発表ですけれども、キャリア教育をする中でまず一つの卒業研究というような、卒業研究発表の場でもあるというようなところで生徒自身もそこに向けて、発表の機会が今回このような形になって3年生の感想もここにあるのですけれども、ちょっと残念だったという事を、自分たちもしっかり後輩にも伝えたかったと、その中でやはりその地域の事を学んだり、それからまた課題研究を3年生になってやる事でようやく1年生の時から違う気持ち、自分でやはり学べて来た、こういうところで農林高校でよかったというような意見感想がいくつもあります。コロナでちょっと今年はできなかったのも残念だという意見も3年生では特に多かったです。少人数というのも、実質少人数になっている訳ですけれども自分の中で学習ができ、先生が一人一人に教えてくれるのがわかりやすいというふうに、1年生が何人かでそのような感想が出てきております。1年生だとなかなかやはり自分達でこう考えてそれに取り組むというような形の授業を1年から急にはできませんし、逆に言うと3年生に向けて1年次、2年次と少しずつできるような形でキャリア教育のコースを進めていく。授業もある程度それに準じた内容になっていきますので、上の学年に行けば当然自覚を持って進めていくといく自覚も当然出てくるでしょうし、それが上手くいけば充実した高校生活が結果として送れたという話になります。入学の時には、やはりおっしゃられるように、なかなか将来こうだというような目的を持って入ってきている子は少ないかなというふうに思いますが、学ぶ中で伸びていくというところは本校の大切にしたいところかなと思います。

日墓部会長

皆が皆、全部高校に上がったところで、将来に対する事という事はないというふうに思います。それを活かしてそしてこの地域でしっかりと、この地域を支える人材になっていただく、そういう人をひとりでも2人でも増やしていくというか、そういう事がやはり下高井農林高校のまた魅力にも繋がってくるだろうし、これから下高井農林高校に入って地域で活躍したい人を育てていくきっかけにもなるのかなと思います。そんな意味で、また高校生との話し合いの場面とか、取り組みの中で設けていきたいと思ひますし、また前から出ているデュアルシステムの中でいろいろな体験する中で、高校生の実際の生の声を聞く場面も増えてくるのではないかなと思いますので、ぜひまたご協力いただければというふうに思います。実際、今、農業をされている小池さん、高校で農業をどういうふうにご考えておりましたか。

木島平村農業関係者 小池さん

正直、農林高校に入りましたけど、その当時、農業をやる気は全くなくて、ただ近かったから行ったみたいな部分が正直ありました。ただそれでも農業というのを選んだというの

やはり、基には親父がやっていて昔から農業見ていて、新潟の専門学校に行ったというのが自分の中のターニングポイントだったのかなという、農業と全く関係なかったのですが、そこで木島平を客観的に見れたというのと農業に対して、新潟も農業は凄いですけど地元を客観的に見る事ができました。あるとき夏休みかな、振興公社にバイトをして、汗をかきながら仕事をするというのが漠然と俺に合っているなというのが農業をやるというきっかけになったので、本当に農林高校にいたときは、特にあまり何も考えていなかったのですよ。今、考えると凄くもったいないのですが、でもそれでも自分の中ではそれがあったから今あるなという部分で前向きに捉えている部分もありますし、片やもっとちゃんとやっておけばよかったなという部分も少なからずあったりはします。そういうがあるので一昨年から11月に今、普及センターから名前変わっていますが、ここに頼まれて農業魅力発見セミナーとかで話してほしいと言われて、今の2年生かな？に対して農業のお話をさせてもらったのですが、そういう事も包み隠さず話したりさせてもらってパワーポイントを使って自分の経営、平成26年度に県の農業MBA研修を受けさせてもらったりしたので、その時の資料を自分の家の本当の経営の数字まで隠さずに出したのですが、それが高校生にとってそこまでリアルな数字を見るというのは凄く新鮮だったらしくて、アンケートが返ってきた中には「あんなに数字を出して心配です」みたいに心配されました。本当に自分の家の経営の金銭的な数字まで出したので、そういうふうに思われた部分もあったのですが、逆にこういうのを見せないと魅力という部分が発見できないなと、農業だけじゃなくて隣に滝沢さんもいますけど、林業の部分に関してもそうなのです。ただ魅力を発信すると言ってもなかなかそれって難しいことで、一番簡単というかわかりやすいというのは、これだけ儲かるんだよというのが一番子供達にとってリアルだったりする部分であると思うのですよ。今はそれをいかに今度、楽しいよとかそういう方向に結びつけていけないのかなという。やはり農業って汚いとか、ちょっと悪いイメージが昔からあって、ここ数年はそういうイメージがだいぶ払拭されてはきたのですが、もっとそういう部分で農業に対するイメージというのを変えていければなというので、セミナーで話させてもらった部分もあって、自分自身も就農当時はツナギを着ていかにも農業という感じだったので、何かそれに対してこういう感じでは、やはり若い子達については来ないなという部分を感じて、自分の家でロゴマークを作ったりとか、Tシャツ作ってみたりとかちょっとそういう方向に向かうようになって、そうするとやはり周りの見た目とかそういうのもだいぶ変わってきたりしたので、やはり魅力といっても本当に難しい部分があるのですが何かちょっとしたことでいくらかでもいい方向に変えられるし、でもやっぱり一番はそれをやる事によってちゃんと生活ができていけるんだよ、こんな余裕があるんだよというのを無理してでも見せる必要も大事かなと感じている部分もあって、そういうのを若い子達に見せていって農業に興味を持ってもらおうというのも凄く大事だなと思います。あと岳北地域の高校の魅力づくりという部分で考えると、農林に入ってもらおうという事を考えると、やはりそれ以前の中学生に対してどれだけそういうイメージを持ってもらえるかというのが大事

かと思うのですね。高校でそれをいくら話したところで、人数が少ない高校生のところにそれ以上入っていく訳でもないですし、やはりその前段階の中学生に対して、そういうものをPRしていかないといけない。今、家の娘を見ていると、中学校のうちにある程度将来に対しての展望とかそういうのを持てるような取り組みをしているみたいな事を言って、結構家の娘とかは今、中学校2年生ですけど明確にこれになりたいというものがあったりします。上の子も今、飯山高校に行ったのですが中学校のうちにある程度、将来の事を結構考えて飯山高校に行ったというのもあって、考えている子はちゃんと考えて高校を選んでいくという部分もあります。そういうのを、もうちょっと木島平中学校だけじゃなくて他もやっているみたいですが、近隣の中学校に対してももっともっと学校教育として、将来をもっと早いうちから見出せるような教育方針というのも大事になってくると思いますし、そこに対して魅力を発信していくのが岳北地域の高校を守っていくというところに直結するのかなというのが感じます。まとまらないのですがそんな感じです。

日基部会長

はい、中学生に対しての話はぜひ取り組んでいきたいと思いますので、ただ地域の中学校だけでなく近隣の、周辺の全ての中学校で対象にして。高校の方では言ってみればオープンキャンパスみたいな感じで受け入れをするのか、それとも体験を通して受け入れをするのか、その辺はまた考えていかないといけないというふうに思いますが、中学生の校長先生どうですかその辺については。

中野・下高井中学校長会木島平中学校 伊賀校長

はい、ありがとうございます。今、小池さんの話をいただいて中学校の方も職場体験も含めて特に2年生がちょうどその過渡期、中学校の場合は将来それが3年生に向けて考えていく部分に一番大事な時期を迎えるという事。そういう意味で、たぶん木島平中学校だけがやっているだけでなく恐らくほとんどの中学校もやっていると思います。中学校も凄く大事ですし、もっと言うと小学校の方がもっと大事なかなと。実を言うと中学校になるとそれ程時間的なゆとりがなくなっていて、体験的な活動というのはかなり限定されてくると思うのですが、私の経験から言うと小学校というのはものすごく総合的な学習の時間とか非常に体験的なやりやすい時期かなと。そういう時にこそ、例えば栽培活動とか、たぶんどの小学校もやってはいるのですが、そのただただやっているのではなくて、体で味わうとかそのよさというのですかね感じるという時期を大事に捉えて。とすれば、そこにもしかしたら可能性があるとしたら、中学生というのがやはりここは専門的な部分で、もし下高井農林高校だったり高校生だったりもうちょっと木島平だけでなく少し広い範囲で、これはもう前から話題にはなっていますが交流と言うか、何らかの形で関わる事、高校生になると非常に大きくて逆に言うと専門性があるのですよね。そうすると高校生のお兄さん達はこんな凄い事をやっているんだという所でまた関わりの中で生まれる学びの中に、即それが農業

に繋がるかどうかはわからないのだけれども、やはり体験の中の一つとして残って、それを持って中学へ上がっていく事で、更にまた強化していけるのかなということで、小中両方で考えていった方が私はいいなと思うし、こういう事を大事にされているところとは校長会の方でもこの会で話題になっていることは伝えていきたいと思っています。小学校の先生方にも伝わるようにできればいいなと思っています。

日基部会長

はい、そうゆう部分についてぜひ進めていきたいと思っています。せっかくなので先程、滝沢さんと話が出ていたので高校の学校生活と最終的に山に関わる仕事に就いたのですがその辺についてちょっと一言お願いします。

北信州森林組合 滝沢利用事業室長

今の若い人達は、やはりスマート林業の方にいっているのもう入ればすぐに機械に乗ってやってもらうというような形になっています。ちょっと林業自体が先程の儲かる儲からないかの話になると儲かっていないみたいで、若い衆が辞めちゃうのですよね。それも実際に今こう近年で5、6人入っているのですが、3人ぐらいしか続かないような形ですので、たいていは先程も言ったとおり3Kというような形もあります。今はそんな事もないですけど本当に自分でやりがいのある仕事なら、私もそうですが除雪をやらせてもらっていて、30年ぐらい自分で本当に楽しくて楽しくて。林業なのですけど冬は林業できないので、除雪をやらせてもらっていて除雪を今もそうですがやっているというような状況なのですけど、また今年この間、採用されて1名入るのです。農林学校じゃないような気がしたのですけど、違う学校らしいのですけど1名入るというような形ですので、私もちょっと利用事業というのですか、ちょっと我々森林組合の中でもこの今言ったスマート林業とかドローンの関係これはまたちょっと部署が違うので私はこれで辞めたら違う人が本署から来れば、もっとこのスマート林業とドローン関係についてはもっと協力ができると思います。その人達の本当に勉強して来ていたりしているので、大変私は役不足で大変申し訳ないのですけどもこんな事でまた後続いたりしておりますので、またよろしくお願いします。

日基部会長

はい、また是非よろしくお願いします。その他、皆さんの方で何かご意見、ご要望それからまたいいアイデアがあったら是非話していただきたいと思っています。

宮川副部会長

栄村は、高校は新潟県の方にも津南中等教育学校というのがあって、小学校6年生で進路を決めて津南中等へ行く子供が、平成18年から1人、2人、3人4人くらい津南の高校に行く訳です。6年間ですね、中学校と高校6年間そっちへ行くようになるんですけど、その

子供達はもうそれこそ将来を考えてそこに向かう、親の意見もあるのですがそういった子供達はそっちの方へ行くというような状況になっていまして、その中等教育学校の国公立の県の目標が卒業生の5割が国公立に行くのだと明確なもう進路、東大や京大やという事をどんどん出してそこへ向かっていくというような学校なのですが、昨年新潟県教委がいろいろな交通の事情とかで募集定員80人に対して今50とか40。最初は定員オーバーしていたのですが、ずっと今少なくなってきて募集停止するというような事になって、津南町は、新潟県に県議を連れて行って、「とんでもないこれだけ頑張っている高校を、地域高校をどうしてくれるんだ」と散々やった結果、白紙に戻っていろいろな活動を続けて、今年の応募はほぼ戻ってきて定員にはまだ達しないようですが、去年と比べるとかなり戻ったというような状況になっています。私も、下高井農林高校を卒業させていただきましたが当時我々の時には新潟県、津南町から結構、同級生がいっぱい来ていたのですよね。新潟県は農業の町ですので津南町辺りからはまだまだ農林に来てよい範囲と思っています。昔は草津とか菅平とかいっぱいいて私も同級生がいる訳なのですが、もっと津南町より十日町辺りから来れる訳ですよね。そういった活動で津南町、本当に農業の町ですのでそこから農業の関係と加茂農林というのが、そんなところまで行かなくちゃいけないので農業の専門学校の高校というと、ここが一番近いというような事があるのでそちらにもやはり津南中学だとか声かけてのいいのではないかなと思っています。津南町の町長さんに会う時はそんな話を私させてもらったのですが、是非、募集の関係ですね、その辺までちょっと伸ばしてもいいのかなと思います。

日躰部会長

はい、そういう取り組みはしていきたいと思います。公立の学校、中学校だと思うので町が了解してくれないと、なかなかこちらで声を掛けにくい部分もあるというふうに思いますが、是非そんな事もこの一つの取り組みとして進めていければと思います。その他に何か、はいどうぞ。

信州いいやま観光局 石田常務

今、ずっと皆さんのご意見を聞いていて思いました。この地域の課題というのはたくさんありまして、先程、宮川副会長さんがおっしゃられた農業後継者が不足しているしこれから大変になってくる、あるいは若者の定住がなかなか厳しい状況になってくる、これはもうこのエリア共通の課題だというふうに思っています。私共の委員が、下高井農林高校に求めるもの、魅力として求めるものというのはどうしてもそうした課題解決というようなものが一つ希望になって、こういった意見を寄せていただいているというのがあるのですが、一方で、生徒さんにとって何が魅力的に進むか、魅力的であるべきなのはむしろ我々サイドではなくて、中学生ですとかあるいは保護者ですとか下高井農林高校にこれから進路先として選ぶお得感みたいなものをお示しできて、そうした部分でなんとかこの存続みたいな部

分に繋げていければと思うのですが、そうした中で先程、伊東会長さんの方にはありました、どんなものが一体子供達が、我々の希望は農業後継者になってほしいとかあるわけですが、子供達の、生徒さん達の望むものというのが、どんなものかというのが我々サイドではまだまだわからない、我々望みはわかりやすいけど、そうした中で一つマネジメントではないですけども、そうした機会ですとか、どうした活動、どうした教育がいいのかカリキュラムみたいなものが保護者ですとか中学生にとって魅力的に写るのか、小池さんの意見の「儲かった」みたいな話も含めて、いろいろな人材がこの地域におりますので、そういうのも幅広く活用いただきながら、この会ですとかこの話し合いを含めていただいた方がいいのかなというふうに思います。

日置部会長

はい、ありがとうございます。これで参考にさせていただいて、小学生、中学生、保護者のいろいろな皆様のご意見、それをどういう形で実現できるのか、できないのかそういうのも含めていろいろまた検討していきたいと、そのためにはそれぞれの自治体とか学校とかPTAとかそういう皆さんにいろいろとご協力いただかなければならないと思います。是非その辺、子供達が何を望んでいるのか、その辺をしっかりと把握する方法、やり方についてもまた考えていきたいというふうに思います。当然学校の方にもお願いしなきゃならないというふうに思いますので、それらについてもまたこちらの方でどういう方法がいいのかまた検討させていただきたいと思います。はい、その他。

木島平村農業関係者 小池さん

先程、僕自身は高校の時農業とか関係なく農林高校に入ったと言ったのですが、校長先生の方に知っているかどうかかわからないのですが、今3年生で僕の友達の子で小学校の時から農業をやりたいと言って、それからずっとブレずに農業をやりたいという気持ちで農林に入って、これで卒業して家に就農するという事です。本当にこの子が小学校の時からずっと農業をやるとずっと言い続けて、そのブレない気持ちというのは凄いなと思って是非、そういう生徒の話というものまたちょっとどこかの場で聞けるような面白いのかな。というのはちょっと今、いろいろ考えてて思ったのですが、なかなか小学校からブレずに農業をやりたい、それで農業高校に入って結局もう家で就業してやるというところまでもう考えていて、というのは本当に昔から凄いなと思っています。是非そういう生徒の話というのをまた下の子達にも、後輩とかにも聞くのも大事かと思うし、また何かのちょっとの場で大人がいっぱいいるところで喋ってくれるというのもなかなか嫌がるのかも知れないのですが、ちょっとそういう話も、僕自身は直接聞くこともできるのですが是非そういう小学校の時からブレずにその気持ち一本通ったものがあって、そこに進むという人の話を聞くというのもちょっと面白いのかなというのは感じます。それは農業とか林業とかそういう関係なく、どういう気持ちでその時からずっとやりたいという気持ちで

いたのかなというを聞くのが面白いかなというのと思いました。

日基部会長

はい、先程あった例えば OB とかそういう生徒さんの体験を通して、思いを通してまた公表する場も設けていきたいというふうに、また校長先生もちょっと。

下高井農林高等学校 久根校長

まさにその子についてなのですけども、その子だけじゃないのですけど毎年、意見発表会というのを校内でやっていまして、3年生ですけども1年生に対してまさにその今の話を話しています。校内ではそういった形で、他のところで頑張っている子もいますし、そばの子もいますし、そういう姿を1年生、2年生が見るとというのがものすごく大事で、今回の課題研究発表会もなんとかして地域もそうですが、在校生にまずは3年生のやっている姿を見させるという事が一番のそれだけは、何としてでもやらなければならないという事で進めて参りました。本校の生徒についてはそういう事で例年やっている事なのですけども是非、もうちょっと下の子とか小、中学生に向けて農業に対しての気持ちであったり、今の儲かるという表現がいいかどうかですけども、しっかり生活して成り立っていくと、けど楽しいという今は農業女子とかいう言葉もあるくらいですから、いろいろなところで若い人がやっているのも生徒も結構知ってはいるのですけども、6次産業化というのでどうやったら要するにちゃんと経営として成り立つのか、というところはまさにその今のデュアルシステムの中に考えていますし、授業の中にも農業高校だけでない部分の例えば商業的な授業ですね、そういうものも今度のカリキュラムに入れていくというのも考えています。いずれにしても、自分でやってみて上手くいく、いかないという事を高校時代にやはり実際に経験していくということをキャリア教育の中で考えていく、またその中で本当に農業に就農していただくそういう生徒がいればなおいいのですけども、そういう経験を通し失敗を繰り返しながらチャレンジしていくというのできるように、という事をやはり課題研究それから今のデュアルシステムを使いながらそういうところで取り組んでいけたらと考えています。

日基部会長

はい、上埜さん何かあったらどうですかね。保護者の立場で。

下高井農林高校PTA会長 上埜 暁子

はい、そうですねいろいろ話をしていただいている中で、この資料3のですね。タイトルのところの、「これからが農林高校が必要とされる社会になる」スローガンというか、キャチコピーを書いていただいているのですけど、本当にこれそうだなと思いますね。去年この部会が始まった時にはいろいろなプロジェクトとかシステム作りというのが、コロナが落

ち着いたらみたいな事を枕詞にして考えてきていたかと思うのですが、今この状況になってみると、もう世の中本当にこれからかなり変わっていくのだろうかと、肌でヒシヒシ感じる中で大学の在り方とか、去年特に本当に大学の必要性とか学びというものが本来の問題だという事を含めて、社会がどんどん変わっていく中で、本当にこれから、農林高校のような実践的な高校で学ぶということが、大事になってくる社会になっていくのだろうというふうに感じますので、いろいろなプロジェクトとかシステム作りとかというものが大事なのですが、それはあくまでもやはり学校先生方、生徒さん達が実践されていくものを私達地域が側面から支援していくというふうな事になるのだと思うのですが、地域の住民、木島平村民だけじゃなく、飯山から生徒さんも大勢来ていますし、飯山市民、周りの自治体の皆さん含めて本当にこれからこそ農林高校が大事になってくる社会になるんだ、農林高校あつての地域なんだという事をやはり皆で共有していく事が大事なのかなというふうに、ちょっとこの会議に参加させていただいて思いました。なので、なかなか私らPTAとか、地域の一村民という立場でこういったプロジェクト、「じゃあどうやって支援をしていくのかな」とか難しいのですけれども、とにかく農林高校の生徒さんのいろいろな事に興味関心を持って、コンクールで優勝したとか、活躍したという部分も含めそういった事だけでなく、日常の学校生活も含めやはり興味関心を持って、何か高校生が何かやると言えば駆けつけたり、テレビで放映されると言えば興味関心を持って見て話題にしたりそういった事が地道に魅力をつくる一つの事になってくるのかなと、小さな力なんですけれども思いました。私、子供が農林高校に入学して今3年なのですが、入学前にちょっと本当に嬉しい事がありまして、入学前に制服をその年に卒業した生徒さんからちょっと制服をちょっと譲ってもらえないかというような事で、ちょっと面識ない方だったのですが知り合いを通じて紹介させていただいて、その制服をいただくという時に、その卒業生のお母さんが「入学おめでとう」という言葉と一緒に、「本当に農林高校楽しいよ。うちも行ってよかったよ。」と言っていて、うちの息子にも「入学したらどんどん自分の好きな事いろいろやりなさい。」とそのお母さんから言ってくれて、それがもの凄いやはり嬉しかったんですね。本当にああ農林高校を選んでよかったなというふうに思いましたので、やはりいろいろな魅力づくりのプロジェクトとかあるとは思いますが、やはりそういうロコミとかそういう事が、一つの見えない大きな力になっていくのかなと思いますので、地域の要望としてはそういう農林高校を応援する気持ちとかそういうのを常に持っていければそれが一つ一番魅力になっていくのかなと思います。ちょっとそんな形でしか協力できないのですが、そんなふうに思います。

日基部会長

はい、ありがとうございました。まだご意見いただいていない方で何かありましたら。

木島平村農業振興公社 小林事務局長

先程から、地域へのアプローチとか小中学生へのアプローチという話が出ているのですが、若干個人的なところになるのですけれども、うちの娘も今中3で、今年の夏ですかね農林高校のオープンキャンパスに参加させてもらって、目指しているところはまた違うところなのでも、農林高校ならではのオープンキャンパスというのを体験させてもらってとても楽しかったという話をしておりました。普段の会話の中で出てくる子供以外の名前が出てきて「誰々ちゃんがとても楽しそうにやっていた。」というような事も言っておりました。やはり普段と違う環境で、木島平の子供達以外の地域の子供達と一緒に学べたという、また農林高校ならではの体験をさせてもらったというのが、とても貴重な体験になっているのだと思います。オープンキャンパスについて恐らく対象学年の子供達に1回だけなのかもしれないですけども、そういった機会を2回とか3回とか作っていただけると農林高校への見方というか、そういうのが変わってくる子供達も出てくるのではないかなと思いますし、期待もしているところであります。それと個人的なところ以外で、仕事絡みの話なのでも、3年度の具体的な取り組みという資料の中で、ソバに特化したソバのブランド化という項目が出てきていますけれども、ソバに特化した書き方なのですが、農林高校さんの方ではソバに限らず農畜産物を多数栽培しておりますし、産物ありますし、この時期ですとシクラメンとかの花とかもあります。時々、役場の方に売りに来ていただいたり、綺麗な花を作ってもらっています。こういったソバに限らず、こういった農畜産物や花をいろいろな場面で販売したりして生徒達にも還元できるような事業をどんどん行ってほしいなと考えます。木島平にも道の駅ファームス木島平ありますし、そちらの方でイベント等行いますと、農林高校生が売るというだけでたくさんの人が訪れるという、既にもうブランド化というか地域で見守る体制ができていますので、道の駅をどんどん使っていただいて、そうすれば木島平村にとってもいいと思いますし、農林高校にとってもいいというふうに思いますので、ぜひいろいろな、コロナでいろいろイベント等については難しい部分もあるのですけれども、そういった村の施設とかも大いに利用していただいて、地域をまた盛り上げていただければいいかなと考えているところであります、以上です。

日墓部会長

はい、オープンキャンパスの状況についてちょっともう一度、校長先生の方からどのような結果で何回ぐらいですか。

下高井農林高等学校 久根校長

今年は2回、正式にはやっております。夏か夏前に厳しい状況にある中で8月8日に1回、県下1番ぐらいの早さでやったところがございますが、暑い中でやりました。もう一度はいつでしたか10月、今度はオープンキャンパスという名前ではないのですが、ほぼ同じような内容でやっております。それ以外には、中学校さんへのという事で訪問させていただいたり、それから2年生が見学に来ていただくような事もそれぞれに中学校さんとやっております。

ます。

日 碁部会長

はい、ありがとうございました。その他、どうですか。何かありましたら。

飯山商工会議所 伊東会頭

先程ちょっと言い忘れたのですが、魅力作りの一番手っ取り早い方法はハードなのですが、下高井農林高校はかなり校舎も古くなっていると思うのです。これをまず綺麗にさせていただく、要するに新しく作り変えていただく。これは子供達には、一番魅力で手っ取り早い方法かなと思います。是非この際、県教委に働きかけていただいて、ハード作りの方に取り組んでいただければ、一番子供達に魅力を感じさせる手っ取り早い方法だと思います。そんなふうに私は思います。

日 碁部会長

また最後に、県教委の方に感想をお聞きたいと思います。その他、どうですか。

下高井農林高等学校 久根校長

生徒にアンケートを取ったという事で先程ちょっと話しましたが、今のその設備の事も含めて、交通手段も含めてこれも合わせてみました。やはり、問題ないという子もいるのですけども、今出てきている交通手段というのはバス、バスが少ない、時間帯が少ないという事が一番であったり、それから運休を今年はちょっとしているのですが、特に戸狩以北、学校は通常でやっているのですが、保護者等でうまく乗せてきてもらえる生徒もいますが、そうでない子もいるのは確かです。ちょっとオンライン等で授業をやったりというところであったり、あらかじめ課題を用意して対応するような事も考えている訳ですけれども、その電車の部分ですね、何ともならないところもあるのですけれども、そんなような生徒の声ですけれども何とかならないものかという事、バスについては本数の事やそういうような事が率直な声としてあったという事。バス代が高いというのは勿論ありますけれども、そのような意見が生徒の方からありました。校内で考えてなければいけないところもある訳ですけれども、施設設備については今年エアコンが入ったというところと、あと今年の冬は昨年より雪が多くて寒いというところが、1年生の方からも3年生の方からもいろいろある訳ですけれども、そういったところですね。エアコンが入ってよかったのだけどまだ冬は寒いという、冬はエアコン使っていないのですけどもストーブだけなのですけども寒いという事、ちょっと学校としても考えていかないといけないところなのかなというふうに思います。できる事できない事ありますが、そんな内容が施設設備、交通手段というところが多かったというところであります。またバスについては、どういった形がいいのか学校でも考えなければいけないところですが、学校からJRさんであったり、バス会社さんにもお願いを

しなければいけないところもあったりする訳ですが、一緒になってお考えいただけるとありがたいと思います。

日墓部会長

はい、他にありませんか。

特別養護老人ホーム里山の家木島平 大日方施設長

福祉の方の関係なのですけども、今、校長先生の方からもお話あったのですけれども交通の便というところで、うちの息子も今年中学3年生で受験生なのですけども、やはり友達が農林高校に行きたい、畜産の方だったりとかその興味の方に関わりたいという子がいるんだなんていう話をしていたのですけれども、やはりその通うのが大変だからというところで、別の通いやすい高校になったんだという話を実際に聞きまして、やはり中学生ながらにこういう事やりたい、ああいう事やりたいとやはり思っている子がいる中で、その交通手段の問題で諦めてしまう、諦めざるを得ないというところが、ちょっともったいないな、なんてちょっと感じた事がありました。それに関してうちの娘も農林高校に通っていたのですけれども、やはりテストで午前中に学校が終わりとなると、やはりバスの本数がなかなか少なかったりとか、バスで飯山駅まで実際に来るのですけれども、JRがなくて結局、午前中で学校は終わりなののですけれども、帰ってくるのはもう夕方になっちゃうというぐらいちょっと交通の手段がなかなかなくて、ちょっと大変だったなあという事も今、先生の話聞いていて思い出したのですけれども、先程もちっと話出しましたが、その津南町とか十日町からとか遠くからもし通う子がいればなんていうところで、うちの施設の3階の方がそういった高校生の生徒さんも泊まれるようにという事で、宿泊というか生活できるようなお部屋がありますので、そういったところもし活用できるのであれば一つお話に入れていただいてもいいのかなと思いました。以上です。

日墓部会長

はい、ありがとうございます。また是非、一緒に考えさせていただきたいなというふうに思います。他に、どうですか皆さん全員お話お聞きしましょう。村松さんいかがですか。

下高井農林高校同窓会 村松会長

今、いろいろお話伺っていてですね、大変リアルな話を聞けたのですけど、同窓会としてというよりも私個人としてですが、実際にはもう農林高校を卒業して約40年よそへ出ていましてそれで帰ってきたという事情がございます。その木島平村の地域の事情というのがなかなかわからなかったのですけれども、ようやく10年過ぎて同窓会の会長も務める中で、いろいろな人の話を伺っている中で、今ここにある魅力ある高校ってどのようなものだろうと、改めて感じる時があります。今、いろいろな人の話で確かにそれをやればいいよね

と、下高井農林高校こういう事で魅力あるから、じゃあ私も僕も行こうという気持ちになってくれるのかどうか。そのためには、いろいろなところで魅力あるにはどうしたらいいかという事で、検討しているんだと思いますが、いろいろな話が出ていますが、中にはですね小学校の時から農業をやりたいと言って一貫してそういう気持ちで下高井農林へ入ってくる。そういう人は、かなり少ないんじゃないかと現実には思っていますが、じゃあ、小学校のうちから中学校のうちからまず下高井農林というのはこういう事を勉強したり、実践しているところですよ、というのを高校の方から出向いて話をするとか、まずそれが基本だと思います。それで、なぜこんな話をしたかというところは皆さん、重々承知だと思うのですけれども、将来人が少なくなってくると飯山市に2校もいないよと。じゃあ、1校にすればいいかというような事から根本的には始まっている話なのです。けれども、農業高校という位置付けからこれは残してもらいたいというのが今の話なのですよね。そのためにはどうしたらいいかということです。この地域、木島平村にしても飯山市にしても野沢温泉、栄村にしても、農業というのをメインでやってきたところなのですよね。そのメインでやってきたものを高校で若干勉強して、あとまたもっと勉強したいとなれば大学へ行けばいいし、そういう状況の中で非常に厳しいというのですかね、本当に残ってくれていて農業やろうかと人というのはなかなか少ないと思います。ただ地域とすれば今、伊東さんがおっしゃるように、建設業でも何でも地域に残ってくれて、この地域の何と言うのですかね願いとして残ってくれるというのは大人の考えであって、子供達はそうあんまり考えていないんですよね。やはり農林高校出たけれども都会へ行くよと、けどもこっちで勉強してそっちで就職するという人もかなりいるんじゃないかと思えます。ですので、まず第一には農林へ入学希望者を多くしてもらわないといけない、というような事でやはりこの魅力づくりという、これが魅力なんですよ、というのを発信していかなければいけないんじゃないかな、とこのように思う訳です。私も、半世紀も前に農林を卒業し、ずっと40年近くよそへ行っていました。私は、林業科卒業でしたので、私も実際に入ったときには林業科に入るとは言ってもですね、親父が木こりをやっていたから農業よりは林業だなと。農業だとちょっと田んぼあるだけで、あと卒業してから農業なんてできないな、というような事で林業の道へ進んで若い頃30代、40代近くまではほとんど現場の仕事でした。その現場で山を見て、伊那谷はちょっと勤務の経験はございませんが、その他、長野県ほとんど全部回って、山の状況というのはずっと見てきたつもりです。それで最後に新任地に来て、それで退職した訳ですけどもここでもやはり農業、林業だけでなく観光というものがあるんですね。それから観光と環境と、農業は環境なんですよ。林業も環境なんですよ。その辺までもっと目を向けて、学校教育の中にもそういう環境の部分も若干取り入れて、学んでもらうような形にしていだけばいいのかなと。農業の人は農業だけ、美味しい米を作るそれだけ。林業は山の手入れをするそれだけ。これじゃやはり駄目なんですね。複合的なもので、田んぼ作るには水がいる。水がなくなったら田んぼはできないと。じゃあ、その上にある水をどういうふうやって守っていくかそういうところを発展させた中で、この地域を守っていかなきゃいけないんじ

やないか、とそんなふうにはやはり農林高校というのは必要なんだとそういう事を皆に教えて高校3年間の中で少しでもそういう事を頭の中に入れておいてもらう、というのが地域の発展にも繋がるのかなとこんなような感じを受けている訳でございますので、いずれにしても、下高井農林高等学校へ入る人、入学する人を是非多くするというのをメインにやってもらえればいいのかと。とりとめのない話になりましたが、私の気持ちとしてはそういう気持ちです。

日墓部会長

この下高井農林高校出たから、必ずしも農業か林業かといった話じゃなくて、地域に必要とされている人材を育てるそういう場という事も、この点については農林高校というか校長先生が一番頭を痛めるところじゃないかというふうに思います。農業、林業をとおしていき地域に、必要とされている人材を育てていくかというその為に学校の設備だったり、教育をどういうふうにしつかりと整えていくかという事は、校長先生が一番多分頭の痛いところというふうに思いますが、そんな事でくくり募集をしたり、工夫をされたりをしたりしていますので、そういう事をやはり小学生、中学生それとまた地域の皆さんにもしつかり知っていただいて、下高井農林高校というのはいろいろな可能性がある訳だという事をやはり知っていただく、そういう魅力の発信、そういう情報の発信も大事なのかなというふうに思います。また皆で協力してそんな体制、そういった学校だけじゃなくてやはり皆でそれを支えていくという体制づくりをしていく事によって、発信力も高まってくるというふうに思いますので、よろしく願いたします。あと皆さんどうですか。

栄村森林組合 上野さん

林業の事で、キャリア教育の部分でドローンとかを活用した授業とかもとてもいいと思うんですけど、木工関係とかもやってもいいんじゃないかなと。子供達で最初に林業とかそういうのを知るのは、多分こういう家とかに使われている木とか触れたりして、初めて知るものだと思うんですよね。なので、やはりそういう木の存在とか、自分達組合では中学生の体験とかでは箸作りとか、あと木工という訳でもないですけど、小学校ぐらいではキノコの駒打ち体験とか、そういうのとか一緒にやって林業のこういう世界もあるんだよというきっかけ作りをしているんです。なので、高校生達も教える力を付けると同時に、木工とかも教えたらいいんじゃないかなと思いました。あと個人的な話になるんですけど、私も農林高校を卒業した者ですが、農業クラブとかで他の農業高校の方と交流を増やしてもいいんじゃないかなと思ってまして、他の農業高校と交流したのも農業クラブの中で大会か何かで初めて交流してちょっとした休憩時間とかに話をしたんですけど、「君たちの高校でどういった農業とか林業の勉強をしているんですか」とか聞いたりした覚えがあって、そこで富士見高校とかで「ハチミツとかやってるよ」とか、知らない世界を知れたり、こういう可能性もあるんだと。その他にも、「小学校とか中学校とかにどういう体験とか教えた

りしているの」とかを高校生同士でやり取りできる環境も作ってもいいのではないかなと思います。それで高校卒業して、社会に出るときにもしかしたら、ああ、あの時のというふうに出会えて仲間も作れるんじゃないかなと思います。

日基部会長

はい、ありがとうございました。また参考にさせていただいて。木工関係というか村ではですね大工さんがなかなか後継者がいないということで去年、一昨年ぐらいから大工イベントというのをやっているんですね。道の駅で、大工さん達が自分達の後継者を是非育成したいという事で、言ってみればそういう職業を子供達に知ってもらいたいという事で一昨年は木製の家を作ったり、それから木工細工をやったりそんな事をやったり、今年はちょっとコロナの関係でできなかったのですが、その時は結構小さい子供達がいっぱい来たんですよ。で、いろいろな体験をしていったので、そういう事も確かに木と触れ合ったり、最終的に林業とか山とかそういうものに興味を持つきっかけになるのかなと思いますので、場合によればそういう大工さんなんかに協力していただいて、もっとすそ野を広げていくという事も考えていきたいなと思います。その他、皆さんの方で。

飯水岳北建設労働組合 真篠組合長

はい、それぞれの皆様方の意見とか聞いたのですが、また重複するところもあるのですが、やはり下高井農林というのは普通校ではなくて実業高校です。その中で、実際に体験ができるというのは素晴らしい事なので、今、話が出ました木と触れ合う、今の子供はこういう木は要するに木の名前ですねそれすらわからないような状態なんです。そういう事も、やはり本当に基本的な事なんだけどもそういう事も勉強してもらったり、やはりこの地元、ここにも出ていますけども、地域の資源を活用して魅力を出す魅力づくりをするというのは大事じゃないかなとそんなふうに思うのですがね。下高井農林をもうちょっとPRしてもらってこういう学校、こういう事をやっていますよというのをもっと全面に出した方がいいと思うのですけどね。話、重複ですがそれぞれいい話が出たのでこれもいい方向に向くんじゃないかっていうふうに感じております、以上です。

日基部会長

はい、ありがとうございました。ひととおり皆さんご意見をお聞きしましたので、要望事項もまだ最終案ではないのですが、その辺含めて県教委から上原さんお越しなので、話していただければと思いますのでお願いいたします。

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室 上原主任指導主事

では、考え方と言いますか今日の感想というような形でお願いをしたいと思います。いろいろな発言をお聞きしまして、一番感じた事は農林の生徒の非常に可能性を信じている

というよりは、この学校へ行くと伸びしろが大きくて、いろいろな可能性を試す事ができ、それを更に夢に繋げる事ができるといった学校であるという認識で皆さんおられるという事かなと思います。最初希望するにしろ、しないにしろ、その学校を選んで入ったんだけれどもいろいろな機会、体験や実習いろいろな人との出会い、そんなところの中で自分の可能性っていうのを本当に見つけて先生方も学校もまた地域の村の協力も得ながら、可能性を最大限に引き出せる学校が魅力づくりに繋がっていくのじゃないかというお話をしていたら感じました。それがひいては、地元の中学生や小学生または保護者の方にどのような形で、いい形でPRができて伝わればそれが募集にも反映されてくると思います。ご意見の中で、これからの方針の中でデュアルシステムという言葉も出てきていますが、これは本当にインターンシップというようなお客様扱いの職場体験ではございません。本当に現場に入って、その稼業について体験をしていただきながら、指導していただきながら現場の職場の皆さんにも現場の先生になっていただいて指導いただくというものですので基本的な考え方のところだと、お客さん扱いから一步出た体験というような形になります。ただ、そんな協力をいただけるという事は非常にありがたい事で、更にコーディネーターまで配置していただけると。全国的な先進的なこれからの考え方といいますと、その中でもそのコーディネーターを学校の中に置いていただいたりしながら、そこが就業先と結びついたりとか、先程のデュアルシステムのまたコーディネートをしていただいたりとか、広い意味で地域と学校を結びつけていけたりいただいていると。正にそういうことをやっていただくという事は、もう全国にもう先駆けてのもう動きと言うのでしょうか、そんな流れになってくるのかなと思います。ちょっと長くなりましたが、学習指導要領というものがありまして、農業の関係ですとこの学習指導要領は高校の農業のところ令和4年から導入される新規のものです。その中には、今、お話の中に出てきたような持続的な農業生産、これ農業の目標ですけれども持続的な農業生産、その中には農業と環境というような学びが当然ある訳ですけれども、持続的な農業生産と更に安全で安心した食料の生産、環境保全そんなところをこうテーマにしながら生命の倫理についても扱う教科であるという事に誇りを持って学んでいきましょうというような内容です。今、正にこうお話しいただいていた魅力づくりのいろいろなこの発言が、そこに結びついてくるんだなというふうに思っ、本当にこう先取りではないですが先進的に検討いただいて恐縮しました、ありがとうございました、以上です。

日基部会長

はい、ありがとうございました。要望事項についても是非受け入れていただけるようにお願いします。その他皆様の方で、今回いただいたご意見等まとめてまた資料の中に出していきたいというふうに思いますが、皆様の方で何かありましたら是非出していただければというふうに思います。

飯水岳北建設労働組合 真篠組合長

今、小学校は木島平小学校、中学校は木島平中学校、高校についても一貫校でできるかどうか分かりませんが、木島平村立という訳にはいかないんですかね。これは木島平村の体力の関係もありますけれども、そういう方向には向かないですか。そういうふうにやっていると今の160人制とか、そういうのは一切関係なく自由にできると思うんですね。そういうのはどうなんですかね。

日基部会長

とても自由にはできないですね。財政的に考えて。校舎の維持から教員の皆さんの給料手当を全部払うとなると多分村の予算終わっちゃいますので。今はしっかりと県教育委員会に財政的な支援だったり、人的な支援をいただきながらその中でしっかりと魅力づくりを進めていくという事でお願いいたします。はい、その他。よろしいですかね、いずれにしても今、それぞれ予算の編成等行っておりますが、令和3年度も間もなく始まりますので、コロナの状況もあってなかなかすぐに思ったようにできる事とできない事もあるかもしれませんが、しっかりと体制を整えながらできる状況になったらすぐに手が付けられるような形で準備をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。それでは4番について事務局に進行を戻しますのでお願いします。

事務局

はい、4番今後のスケジュールについてです。第3回全体会ですが1月の下旬から2月上旬頃の開催予定となっております。長野県教育委員会への意見、提案書の提出につきましては2月中の予定となっております、以上です。5のその他に入ります、事務局からは特段ございませんが、皆様方からありましたらお願いいたします。

日基部会長

次回はいつぐらいの予定。

事務局

この農林高校部会。まだ日にちは決まっていないです。また決めましてご案内させていただきたいと思います。はっきりしましたらご案内させていただきたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。

日基部会長

今後については高校の魅力づくりについてはずっと年度を越えて、継続してやっていきますので、皆さんにもまたご協力をいただきたいというふうに思います。

事務局

以上をもちまして、岳北地域高校の魅力作り研究協議会第4回農林高校部会を閉じます。
ありがとうございました。